

第1回 豊岡市竹野地域小中一貫校開設準備委員会 会議録（要旨）

- 1 日時 2023年2月24日（金） 19時00分～20時45分
- 2 場所 竹野地区コミュニティセンター多目的ホール（竹野庁舎2階）
- 3 出席者 《委員》19名（委員名簿順）
古保治郎委員、田村高志委員、富森孝委員、仲治寿幸委員、
大井真由美委員、上野真希委員、大部美幸委員、加藤未来委員、
太田垣輝尚委員、山本英里子委員、長谷川博子委員、福田達也委員、
赤松直委員、宇川博久委員、間智子委員、平尾喜彦委員、増田克志委員、
田中博文委員、上田彩乃委員
（欠席）辻正孝委員
《オブザーバー》1名
米田達也オブザーバー〔オンライン参加〕
《事務局》8名
嶋公治教育長、正木一郎教育次長、永井義久教育総務課長、
寺坂浩司主幹（こども教育課）、岩崎隆行主幹（同左）、
野崎律男室長（教育総務課）、細田正徳主幹（同左）、今井雄一主査（同左）
- 4 傍聴者 1名
- 5 主な内容
- (1) 挨拶
嶋教育長から挨拶
- ・2/22の竹野小学校スクールバスでの児童降ろし忘れ事案の経緯報告とお詫び
 - ・竹野地域での小中一貫校の開設に向けて委員の皆様と共にイメージを共有化し、最高の学校を作るという気持ちで望んで参りたい。様々な立場、観点から意見を出していただき、子どもたちが行ってよかった、もっと行きたいと思えるような学校づくりをしていきたい。
- (2) 委員紹介
委員一人ずつ自己紹介する
- (3) 委員長・副委員長の選任
委員長に田中博文委員、副委員長に加藤未来委員が選任された
- 田中委員長
皆さま方のお知恵を拝借しながら、竹野小中学校がすばらしい学校になるように、子どもたちにとって本当に最高の教育をしていただける場所となるように、良い会議になればと思います。竹野地域は、少子高齢化で子どもたちも人数が減ってきているが、竹野の教育は本当に良いことがされているというイメージを広げていけば、子育て世代の方々が我が子を竹野で学ばせたいと思うような地域になっていくのではないかと思いますのでよろしくお願いします。

(4) 議事

ア 説明

- (ア) これまでの経過
- (イ) 施設一体型小中一貫校について
- (ウ) 豊岡市竹野地域小中一貫校開設準備委員会について
- (エ) 今後のスケジュール等について

事務局から、資料をもとに説明を行った

※委員からの質問等については、「6 主な発言内容等（要約） (1) 説明に対しての質問等」のとおり

(5) 意見交換

各委員から現時点での小中一貫校への思い、期待や開設準備委員会への意気込み等について意見を述べられた

※意見交換の内容については、「6 主な発言内容等（要約） (2) 意見交換」のとおり

6 主な発言内容等（要約）

(1) 説明に対しての質問等

《委員》

何点か質問したい。一つ目として、今回の資料に小中一貫校のメリット、デメリットが挙げられているが、その根拠を教えてください。二つ目として、個人的な意見ではあるが、義務教育学校か併設型かでは、今のところ義務教育学校ではない方がいいのではないかと感じている。理由としては、教員の免許が義務教育学校は小学校、中学校のどちらも持っていないといけない。併設であれば別々で大丈夫となる。今、ニュースでも教員不足が言われている中で、免許を2種類とも持たないといけないとなると、働ける教員が限られてくるのではないかと少し心配に思う。義務教育学校の方が多忙感があると懸念している。最後に、視察に関して学校に行くので平日だと思うが、代理の参加は可能か。

《事務局》

義務教育学校のメリット、デメリットの根拠であるが、国の資料として事例集があり、取組や、メリット、効果が示されている。また、他の自治体で義務教育学校を導入する際にメリット、デメリットを検討され、同様の分析をされている。「デメリットはあまりない」とまとめをされているところもある。実際に委員にも視察に行ってもらって、感じていただければと思っている。

視察については、平日を想定し、受入人数の制限など、受入先との調整も必要となるが、基本的には委員の方に限定する必要があると思っている。

免許保持の件は、教育委員会で検討する。委員会では、まずは子どもたちにとって良い施設なのか、良い学校なのか、どんな内容をやるのか、を検討したい。その後、免許の件であるとか、働く時間、先生たちのやりがいなど、検討が必要と思っている。免許のことで義務教育学校か、併設型小学校・中学校の選択の根拠にはな

りにくいと考えている。

《委員》

個人的には、施設も大事ではあるが、そこで働く教員の力が子どもにとって一番大事と感じているので、教員の話を見せていただいた。

(2) 意見交換

《委員》

難しいことではあるが、単純に子どもたちが竹野ですくすくと元気よく自分の力が発揮できるような学校を作っていただきたい。これが私たち住民の願いであり、将来、帰ってきて地域を盛り上げる大人に繋がる子どもを育てていけるようにしてもらいたい。中学校の近くに住んでいて、子どもたちも非常に元気よく挨拶してくれるし、マナーもよいと思っている。少子化で子どもが少なくなっていく中で、小学校・中学校の子どもたちがもまれていくことがすごく大事かと思う。人数が増えれば、子どもたちの力が出てくるのではないかと思う。

地域住民として1点お願いがある。現状、竹野中学校のグラウンドは、鳥獣被害がある。子どもたちへの被害は出ていないと思うが、将来的には危険の可能性もあるので、何らかの形で対策をお願いしたい。

地域では景観も整えたいと花を植えることなども考えている。とにかく子どもたちのために頑張っていきたい。

《委員》

今、テレビでウクライナの戦争を見る。そこの先生が言っていたことがすごく印象的で、この子たちは幸せな子どもの時代を奪われてしまったと言っていた。どういう形の学校になるにせよ、子どもとして幸せに過ごせるような9年間を体験できるような学校を作ってほしいと思う。それから、小さい学校であるので、子どもたちの力を個別指導などで伸ばせられると思う。子どもは、大概、都会の学校に行ってしまうが、将来、竹野に帰ってきたいと思いを持つような子どもたちを育てていただきたい。そのような教育をぜひお願いしたいと思う。それでないと、どんどん人口が減ってきて、最後には消滅してしまう。ここで学んだ子どもたちが、将来、竹野に帰ってきて、ここで楽しい人生を送りたいと思う子どもたちを育ててほしいと思う。

《委員》

私は、森本小学校、森本中学校と併設した学校で育った。考えると既にその時に一貫校の学校にいたのかなと今さらに感じている。小中は別々であったが、子どもたちは、中学の先輩たちを見て、ああなりたい、こうなりたいと思った瞬間もあったし、中学生が部活を頑張っている様子を応援したり、そのようなことが今はなかなか無い中で育ってきた。それがすごく思い出される。それと、森本の小・中学校は、体育館や旧校舎の一部を一緒に使っていた。9年間、一緒にみんなで大事に使っていこうという気持

ちをお互いに持っていた。そういうことを考えると、小中一貫校は課題もあるかもしれないが、子どもたちの心を育むには本当に良い機会だと思っている。ぜひ、そのようなことに進んでいけるような取組になればと思っている。

《委員》

教育の環境づくりがものすごく大事だと思う。中学校と小学校は、私の中では別のもんと思っている。併設型小学校・中学校でも、義務教育学校でも、そこは明確にしないといけないと思っている。仕事上、中学校を卒業して社長になられた方をたくさん見ている。社会に出る前のステージの段階なので、私たちの子どもたちにどういう環境を作るのが良いのかということを考えていきたいと思う。

《委員》

中竹野小学校に子どもを通わせていて、本当は中竹野小学校を卒業させてやりたかったが、この春から竹野小学校に通っている。子どもは本当に楽しそうにしている、統合して良かったと思っている。このまま小中一貫校になれば良いと思っている。

《委員》

小中一貫校になれば、子どもたちは専門的な教育、高い学びをすることができて、子どもたちの夢が広がるのではないかと思いますとも期待している。竹野地域は子どもが少ないので、小学校の統合でも感じたが、いろいろな友達が増える、たくさんの人と関わって過ごすというのは、子どもたちにとっては欠かせないことだと思っている。小学校、中学校で一貫して、そして、たくさん的人数で、一人でも多くの人との関わりが増えるというのは、子どもたちにとって大きな成長にも繋がると思うし、大切な経験だと思うので、メリットばかりではないかもしれないが、良いことの方が多いのではないかなと思う。

《委員》

この施設一体型小中一貫校の説明会を去年の8月に保護者向けであったり、また、学校でも聞いているが、もう少ししっかり勉強して、ここで意見が言えるようにしたいと思う。今回、小中一貫教育を進める3つのタイプのうち、どれが良いのか議論をすることで、次までにはしっかりこの内容をいろいろ勉強して意見が言えればと思っている。

8月の説明会の時にスクールバスの話をさせていただいた。乗るはずだったのにバスが通り過ぎてしまったということもあったり、中学校と小学校で時間帯が違ったり、今日は小学校から中学校に回るはずなのに中学校に来なかったというのが何回かあったので、説明会の時に漏れがないように添乗員が乗ることができないのかと尋ねさせていただいたが、できないということだった。であれば、問題が起こる前にきちんと何らかの手立てができればと思っていたが、実際にそれが起きたので、今すべきこともや

っていければと感じている。バスの運転士だけではなくて、それ以外にも一人の目だけではなくて、二人の目で見ると、チェックをしたり、いろいろなことが検討できると思うので、小中一貫校の件とは別によろしくお願ひしたい。

《委員》

私もイメージがまだはっきりできていない。初めはやっぱり小学校と中学校は別ものだという頭でいたのでは、なかなか賛成する気持ちになれなかったが、決まっている以上、ここに来た以上、それに向けて頑張っていかなければいけない。

私たちがどうするかという話し合いだが、子どもたちにも小中一貫校になることを学校では聞いているのか。子どもたちのことをまず考えるということだが、子どもたちの意見がまだ何も聞かされていないというのが正直ある。

個人の意見であるが、一緒になったら自転車通はなしにして、同じ敷地内であるなら、小学校も中学校も同じバスに乗って行ってほしい。

《事務局》

子どもたちの意見という部分については、小中一貫校の協議が始まったばかりであるので、ある程度、道筋もついた段階で、子どもたちにも何か考える機会を持てればと思っている。例えば、遊び場の工夫であるとか、こういった交流がしたいであるとか。子どもたちは一緒になってどうなるという発想がしにくい部分もあるかと思うので、まずは委員会等で検討していただいた内容を正しく伝えて、そのうえで、楽しみなことは何かなどを話をすることができればと考えている。

何も決まっていない段階で話をしても不安を与えてしまうことになるので、しかるべき時に話を聞く場や、あるいは、新しい学校への夢を語れるような場も設けることができればと思っている。今後、検討していきたい。

《委員》

統合を検討する前の話として森本保育園では同級生が4人で、従妹の学校の運動会では20人くらいいて、できることが違うことに大きなショックを受けた。小学校の統合が決まった後、交流が何回か続く中で、活動が楽しいということを感じていた。昨年春に統合し、子どもたちは前の学校のことを名残惜しく思っていたが、竹野小学校でどんな様子をしているのかと思っていたら、子どもたちは大人数になってできることがとても増えていた。できることが増えて、友だちと楽しく過ごしているのをオープンスクールで目の当たりにして、統合して良かったと思っている。できることが増える、友だちが増えることで可能性が広がった。

小学校1年生にとって中学校のお兄さんお姉さんは、少し話し難い、近寄り難い存在だと思う。朝のスクールバスでも、正直、顔を見てあいさつをしているという雰囲気ではない。小学生同士では元気にあいさつをしていますが、小学生が中学生にあいさつをするという姿はあまり見られない。そのあたりが今度、一緒になって普段から接するという状況になっていけば、隔たりがなくなっていくのかと思う。一つになることで、

また新しくできることが増えるのではないかと、子どもたちはそれが楽しいと感じる、そんな学校になっていくように大人たちがその環境を整えていくために力を尽くしていきたいと思っている。子どもたちがこの学校に行って良かったと、行けて良かった、大きくなってこの学校が良かったと胸をはって言えるような学校になればと思っている。

《委員》

小中一貫校の説明会から参加していて、こども園への説明会の時に義務教育学校というものを初めて聞いて、そこから少し調べた。私個人としては、まだまだ資料も足りなくてネットの中でも意見も少ないし、自分の求めるものがなかなか出てこないとか、明確でもないものがたくさんある。そういう中でどちらにするかという意見を求められるなら、もう少し資料があればいろいろな意見が出ると思う。自分の中でもいろいろと考え、すごく期待もしているが、それ以上に変化することへの不安もたくさんある。予定どおりなら子どもが2年生の秋くらいに新しい校舎になるが、その移行も上手にできればと思う。子どもにもすごく期待を持たせたいと思うので、親もしっかりと気持ちを切り替え、考えないといけないと思った。高校生と中学生の子もしっかり竹野小学校で育てていただいて、竹野をすごく学ばせていただいたので、竹野の魅力的なところを最大限に生かせる小中一貫校になればと思う。体育祭や運動会など子どもたちの楽しみもしっかりと生かせるような学校になればと期待もたくさん含めて参加している。

《委員》

2年生と1年生になる子、2025年に1年生になる子がいる。新校舎でスタートできればいいが、上の子どもたちも環境が大きく変わる状況が子どもの心情としてどう感じるのかと心配をしている。私は、子ども＝環境と思っていて、建物だけではなく、周りの自然も、子どもたちの関わり、大人との関わり、いろいろな人たちとの関わりの中で育っていくと思う。1年生と中学生を比べるとその影響もすごく大きいと思うので、子どもの目線からもイメージしながら、委員会で意見を言わせていただければと思っている。私自身は、新しい校舎や学校名などワクワクした気持ちでいる。ここでの協議が実現することにワクワクするし、不安もある。子どもにとってすごく大きいことであるので、視察では目で見て確かめて子どもたちの様子も見たいと思うし、よく考えながら進めていければと思っている。

《委員》

今日、この会に参加して一番嬉しいと思ったのが、教育長の最高の学校を作るという言葉です。竹野地域の小学校・中学校にそれだけの思いを持ってくださることにありがたいと思っている。私もこの会に参加できることにワクワクする一方で、責任を感じ、これからの子どもたちのことを考えて、しっかりと精一杯考えていきたいと思っ

ている。その中で、最高の学校を作るためには、学校だけではなくて、地域も保護者も子どもを含めて前向きに考えていく必要があるのではないかと思った。いろいろな思いもあるので難しいところもあるかもしれないが、いきなりこうなったという形ではなく、過程にしっかりと参加して、地域も保護者も子どもも皆が自分ごととして学校を良くしていきたいと思うことが最高の学校にも繋がってくるのではないかと思うので、私自身も勉強してこの会に参加していきたいと思っている。

《委員》

学校に行くのが楽しい、学校に来て良かったと皆が思う、そんな学校を目指して、職員一同で取り組んでいる。ただ、この3年間コロナ禍でもあり、なかなか保護者の皆さんや地域の皆さんに子どもたちの様子や職員、学校の取組を見ていただく機会が少なかった。何とか今年は少しずつできるようになっていて、先日も中学1年生の子どもたちが餅つき体験をして、婦人会の皆さんから魚の捌き方を学校で経験させていただいた。地域の皆さんも非常に協力的で子どもたちのことを考えてくださっている竹野であるので、小学校1年生から9学年の子どもたちが一つの場所に集まって教育を受ける、その中で、地域、保護者、教師、いろいろな人たちが子どもたちのために何ができるのかということを考えながら育てていく、というシステムはすごく良いことだと思う。

《委員》

一つ目に、この小中一貫校の準備にあたって、まずは先生の熱を上げることを一生懸命に頑張っている。住民説明会などについて、先生方にこんな話でした、このように進んでいるということをしっかり説明している。また、先日の教育委員会での視察ではとても素晴らしい校舎で教育内容の話も聞き、そのことを口だけではなくて、動画に撮って先生方に見せて、先生方から忌憚のない意見をいただいた。先ほど、不安だという意見もあったが、視察先の子どもたちはすごく生き生きとしていて、4年生までの制服を着ていない子どもたちは、竹野小の子どもたちと同じような感じで、休み時間には元気に走って、私に「こんにちは！」とあいさつしてくれたり、その傍には制服を着て少し大人びた子どもが歩いたりしているような雰囲気があって、小学校と中学校が交ざりあって生き生きと活動している様子が見られた。

二つ目に、今回バスの事案もあったが、安全・安心に子どもが笑顔でいられる学校を作ることが大事だと考えている。子どもは地域の宝で、私たちにとって大切なものであるので、彼らが笑顔で生き生きと教育を受けられるようにすることが大事だと思っている。統合して良かったとの保護者の声もいただいた。少しトラブルもあったり、それを解決したりしているが、逆に元気に今までになかったキャラクターを出している子どももいる。子どもたちがそれぞれの個性を持って頑張ってくれる、そんな学校を目指していかないといけないと思っている。

《委員》

この4月から竹野認定こども園の園長になり、その前は幼稚園にいた。幼稚園は、4歳と5歳の2年保育で、4歳、5歳でも異年齢で育ちあうことを見てきた。認定こども園で0歳から5歳と年齢の幅が広がり、それだけの子どもたちがいる、その環境があるというだけで、こんなにも影響しあって、育ちあうということ感じている。小学校・中学校と一緒にいると年齢が広って、いろいろな刺激、いままでとはまた違った学校になることが楽しみです。竹野認定こども園で0歳から5歳まで育った子どもたちが小中一貫校に行くことになるため、乳幼児を預かる施設として責任の重さを改めて感じている。今、こども園に通っている子どもたちをとにかく自分が大好きな子どもに、それから人と関わるのが大好きな子どもになってほしいと一番に願っている。そんな子どもたちが次に素敵な小中一貫校に通えるようになればいいと思う。この会でいろいろと学び、それをこども園に持ち帰って子どもたちに生かせればと思っている。

《委員》

私自身、昭和45年くらいに複式学級を体験した。その当時は、1学年に7～8人であったが、その時の体験が今の思い出ではあまり良くなかった。同級生同士でもそのような話が出てくる。子どもたちにとって一番良い教育環境になるように皆さんと一緒に協議したいと思う。

《委員》

今から60年くらい前の話だが、私が小学校を卒業する時に、近所の子から英語を知っているかと聞かれ、知らなかったので中学校に行きたくないという思いだった。また、算数も数学となって難しくなる。小学校から中学校になって、ギャップというものが子どもにとって非常に大きいものと今さらながらに思っている。中学生になったら上級生としての自覚、おもしろい、小学生はこんな中学生になりたいなという憧れ、そんな思いを大切にしながら考えていきたい。

《委員》

私は副業として、子どもの自然学校やキャンプなどいろいろな子どもたちと一緒に触れ合ったりしている。子どもたちと関わってすごく思うことが、彼らはとてもいろいろな意見を持っているということ。もしかしたら家庭で言えないことだったり、友だちには言えないことだったりすることもあるのかなと思いながら、彼らのいろいろな話を聞いている。小学校の低学年でも一生懸命に私たち大人がこうやるんだよと真剣に対応すると、大人用のテントでも建てられるようになってきたりする。彼らは子どもではあるが、しっかり自分たちの意識というものはあるし、大人たちが思っている以上にできることがすごくたくさんある。他の委員からもあったように、学校がこうなるということは、ぜひ子どもたちにも伝えていただきたいと思う。今は、分からないと言うかもしれないが、何回も話をしていくうちに、じゃあ、こうしてほしいという意見

はきっと出てくると思うので、ちゃんと子どもたち自身に聞いてあげてほしいと思う。

先ほどスクールバスの話があったが、私も良く知っている子で、彼もこの先、長い数年間を同じスクールバスに乗って移動することになる。竹野小まで40分くらいバスに乗るので退屈で仕方がないと思う。竹野南地区に入ると一緒に乗る友だちもいなくなる。だから、スクールバスの中で何かできるようなものがあれば、長い移動中も退屈せずにすむと思う。竹野南地区の長い距離を移動する子どもたちもいるということも含めて、難しいかもしれないが考えてほしいと思う。

一番思うのは、子育てが終わった方々がたくさんいるので、保護者だけでなく、直接、学校に関係ない人たちこそがPTAや先生方を支えるような竹野町にならないといけないと思う。私としても、保護者や先生方が働きやすい、住みやすいような町づくりを一緒にしていければと思う。

《オブザーバー》

小中一貫校に関して体験してきたことをお伝えしたい。先日、養父市の関宮学園がどういった学校なのか聞きたいと思い、養父市長をはじめ若手の議員さんとお会いする機会を作らせていただき、話を伺った。その際に、市長に関宮学園を小中一貫校にされて良かったこと、悪かったことを忌憚なく教えていただきたいとお聞きしたところ、メリットしかないとおっしゃっていた。実際にお子さんを通わせている議員さんにも伺ったが、他もなぜ早くしないのかと思うと言われていた。何が良いのかと尋ねると、説明にもあったが、中学校の先生が小学生を教えることができるというのはすごく大きいようで、この竹野でも同様の効果が得られるであろうと期待がさらに増したところ。そして、教育長から最高の小中一貫校を作るとの言葉であったので、皆さんと一緒に良い学校を、そして子どもたちが何よりも楽しく通える学校として開校できるように検討していきたいと思う。

《委員長》

ありがとうございました。皆様の思いをお一人お一人聞けたことは、とても良かったと思う。きつこの竹野町に素晴らしい学校ができるのではないと思う。教育委員会の意気込みは教育長からあいさつでいただいたが、事務局の方々や学校の先生方、そして地域の住民の方々の意見をお聞きして、目指す学校がこの竹野の地にできることを願っている。皆さんの考えを生かしながら、今後の協議を進めていきたいと思う。

[議事は以上]